

くした菊池一族を配祀している。その
宝物殿には、古文書・家書・千本槍・
能衣装・能面等が収められておるが、
みな貴重な文化財であり、歴史資料で
ある。

菊池神社を中心として、神死一帯
に約一万本の桜が植えられている。
丁度満開で、雲仙・阿蘇を背
景とした眺めは、また格別で
あった。

菊池氏は、武光が懐良親王を
率じて、九州を制圧した時が絶
頂で、以後次第に足利勢に圧迫

され、十七代武朝の時(弘和元年、
一三八〇)、今川了俊に菊池を占領され

た。後、南北朝の合一に際して菊池は
復帰したが、昔日の勢威を保つことは出
来なかった。

戦国時代に菊池氏を継いだ、二十六代義武(大友義親)は、大友氏にそむいて、大友義鎮のために、直入郡城原に誘殺されて、菊池氏の正統は断絶した。

明治時代に華族に列した菊池氏は、二十二代能運の子重為が、一族内紛の厄を避けて日向国米良に逃れ、土着して米良氏を称して、その子孫が続いていたのであるが、則忠が菊池を称して華族に列せられ、武良・武夫と続いたわけである。

爛漫たる桜花の下、菊池氏の興亡を偲んで依回を久し
くした。
バスで菊池から大津へ、大津から豊肥線で大分へ、大

分からまたバスで佐伯へと乗り替けて、帰宅したのはす
っかり暮れた七時すぎであった。
車を持つていた人は、一日でゆっくり往復出来るコト
である。秋の誘れと共に遊心の動く人には、是非葉め
たい所である。私と菊池溪谷から大観峰のコースを目ざ
して、機会があったら三度出かけたと思っている。
(おわり)

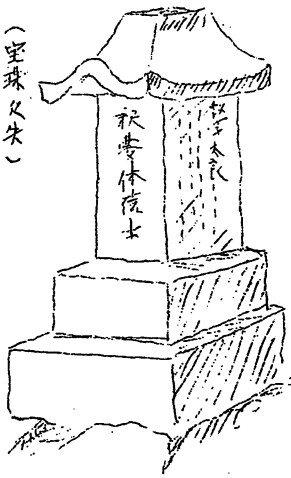
記録

清原宇太良寛死の謎 (羽柴)
大越の奥はその墓をたずねて

今から七五〇年前、西南の役に当り、佐伯市史に「わしい。
去る七月十五日午後、上堅田の高野若敷屋に掛け左は、暑
気さびしい中を大越まで自転車を走らせ、その墓をたずねた。
ここには数年前、皆で立寄ったところ、正面は「秋夢休信士」
の法名があり、向って右側面に

故宇太良寛去ル明治十年西南兵乱際寛死(難なくして死す)
候段惘然ノ至ニ付 手当トシテ金八町下賜候事

明治十二年一月廿三日 大分 県
と刻まれている。そして左側に、
「明治十五年四月十四日
宇太良」とある。



(望球久朱)

「佐伯市史」では
六月十二日、それが
四月十四日となると
二か月ちがう。太陽
曆と陰曆ということ
に考えてもおかしい。
どなたか、しらべ
ては下さらんか。